



# 照明探偵団通信

vol. 45 Shomei Tanteidan Tsu-shin

## 第41回街歩き：アジアンレストラン あかりのフィールドリサーチ

2011.04.09

新大久保駅の周辺のコリアンタウンと呼ばれる街に21団員が集まり、おいしい物を食べようという期待半分、精力的にあかり調査に取り組みました。5班に分かれて、節電されている街を見てから、アジアンレストランのあかりフィールドワークを行うという試みでした。参加した団員にはいつも以上にチャレンジングな街歩き&サロンでした。

### ■アジアン街と飲食店のあかり調査

日没前に新大久保駅近くに参加団員が集合、SQUAD 3人担当者が今回の主旨を説明しました。4-5人の少人数の班で違ったアジアの国の飲食店に行き、美味しい物を食べるとともにお店全体のあかり調査に取り組んでみました。このようなフィールドリサーチの形は照明探偵団では初めてにもかかわらず、団員が責任を持って、内容の濃い記録を残しました。

最初に全員で節電されている街を観察しました。集合場所から大久保駅に向かって、大久保通りを歩き、JR大久保駅で折り返し、再び大通りを観察しました。細い道であるコリアン通りで右折、職安通りまで出ました。いつもよりファサード照明や看板のを落としている印象を受けました。次に5班に分かれ、決められたレストランへと移動しました。短時間でしたが、飲んで、食べて、もちろん照明も調査して2時間後に韓国の飲食店で、簡単な報告会も開きました。



当日の街歩きルート：  
新大久保駅→  
大久保駅→  
コリアン通り→  
職安通り→  
5班に分かれてアジアレストラン調査へ



面出団長は照度計を地面に置いて、正しい照度の測り方を説明してくれました。



街歩きに参加団員が集まって、フィールドリサーチについてのオリエンテーションを行いました。



■ Group 1: 台湾 台南担仔麵 (たいなんたあみ)

By: 古川 智也 団員

職安通りから大久保公園への筋に入って 10 数m。コリアンタウンのイメージが強いエリアに、オープンして 20 年近く経つという台湾料理のお店です。周囲の韓国店や中華店に押されて、つい見落としてしまいそうなファサードですが、4 団員がつけた外観の平均スコアは 76 点。デザインに凝ったロゴの看板が反射グレアで見づらく、消灯中の提灯は内照式の方が屋台の雰囲気が出るのではないかという意見等でした。しかし、窓のデザインやドアノブの彫刻は、デザインへの拘りを表すもので、店内の設えへの期待が膨らみます。

店内は、電球色で家庭的な雰囲気に包まれて、居心地がとてもよい空間でした。内装は天然素材を使い、赤・茶・白で統一されたインテリアには随所に装飾が施され、お客を飽きさせません。丸い木製テーブルと丸椅子は初対面のメンバーの距離感を縮めて、団長からリサーチ直前に出された課題の「台湾店と中華店何が違うか？」に会話が弾みました。

4 団員の店内平均スコアは 87 点。お品書き札周辺の白色の光やニッチ照明等が気になりました。一方、天井開口が四角形のパフタイプダウンライトは、不快グレアがなく、お店の雰囲気にあっていて印象的と皆、加点ポイントに挙げました。

そして、料理やお酒、サービス、価格を加えた総合平均スコアは 89 点。バックグラウンドや価値感、お店への期待度は 4 人それぞれですが、ワイワイと楽しめて大満足のお店でした。



節電されている大久保。ファサード照明や看板照明が消灯したり、歩道や道路用照明も一つ置きに点灯していました。



①台湾店内では楽しくなるフォルムの窓とニッチが空間を広く見せ、机上面照度は 100lx、壁面は 60lx (H=1,500)

② Group 1 調査団員: 古川 智也、細野 令子、高橋 祐司、垣内 瑛美理



③台湾店のファサード:黄で縁どりされた赤地に、かなり凝ったデザインのロゴの看板と、赤い提灯が店の目印。入り口のアイレベルの鉛直面照度は 30 ~ 50lx。



■ Group 2: 韓国 はんあり

By: 高橋 桃子団員

2班は、新大久保の中でも特に韓国関連店舗がひしめく「コリアン通り」にある韓国料理店「はんあり」を担当。このお店でまず目をひくのは、おじさんのイラストのある看板。この看板は外照式ですが節電のため消灯されていました。その他外観には内照式のメニュー看板が使われていたり、街路灯(水銀灯)、店内の明かりにより、店舗前面にも十分な明かりが保たれていると感じました。入り口付近の照度は100lx、色温度は2900Kでした。

店内はペンダントとダウンライトを使用。照明器具の数は多くないものの一点一点の照度が高く、机の上は非常に明るく、照度75lx、色温度2500Kでした。店内には、同店を訪れたと思われる韓流スターの写真・ポスター・色紙が飾られています。

2班が注文したのはもっともベーシックなサムギョブサルがメインのコース。店員が豚肉の塊をハサミで切って焼いてくれるスタイルで、その肉の焼ける音がかなり大きく、我々が話す際にも大きめの声を出さないと聞こえないくらい活気のある店という印象でした。この店はコリアン通りの中でも人気店で、店員によると客の9割は女性が占めています。肉だけでなく野菜もたっぷり摂れ、リーズナブルで明るい雰囲気、という3拍子揃った店舗で我々も杯を進めつつ楽しく調査をすることができました。

■ Group 3: 中華 鼎龍飯店

By: 松山 篤史団員

我々3班のメンバーは、大久保通りより路地へ少し入ったところにある鼎龍飯店という中華料理店をリサーチしてきました。

お店の周辺には他に目立ったファサードがなく、道路面の照度は14lxと非常に暗いです。そのため、白熱灯の入った提灯や内照式看板は大通りから見ても非常に目がつきやすく、また門構えなど随所に見られる赤い色からは中華料理店らしさを感じられました。中国において、赤は旧正月や結婚式などのときによく使われるおめでたい色であるため、このような配色によってお客さんを歓迎してくれているようでした。しかし、提灯や看板以上に目立ってしまっていたのが、お店の入り口付近に取り付けられた駐車場のスポットライト。照明器具の設置位置が低いため照射角が水平に近く、これでは大通りからお店に近づくお客さんの目に強烈なグレアを感じさせてしまうため、設置方法に工夫がほしいと感じました。

お店の中はというと、テーブル・照明共に非常に均斉のとれたレイアウトとなっていました。ダウンライトで等しく照らされたテーブル面は110~130lxと明るくほとんどムラがありません。まるで一般的な日本料理店にもそのまま活かせるライティングであったため、【中国らしいライティングとはどのようなものか】と



①入り口付近ではキムチの試食販売を行っており、客の足を止めることに成功している。(店の入り口で食べ物を売る韓国料理店は他にも数店見つかりました。)

②韓国料理店の看板には、「豚」や「人物」のイラストが多用され、これは他の国のお店ではあまり見られない傾向です。

③韓国飲食店「はんあり」店内はとても明るく、活気のある空間。

④ Group 2 調査団員:宮下 真歩、高橋、、伸明、稲葉 裕、高橋 桃子



⑤中華料理店内では光沢のある褐色のテーブルと朱色の椅子が中国らしい。内壁は白色の吹き付け、カーテンは淡い黄色で全体的に明るい印象。

⑥中華飲食店「鼎龍飯店」の外観。お店前の路上は10lx、入口階段あたりは15lxぐらい。強烈なスポットライトは150Wのハロゲンランプ。



という問いの答を見つけることは残念ながらできませんでした。

現在日本にはたくさんのアジア料理店が進出しています。その全てが現地の料理、インテリアを取り入れているわけではなく、あくまで「日本人のもつ現地のイメージを再現した」お店が多いのではないかという感想を持ちました。

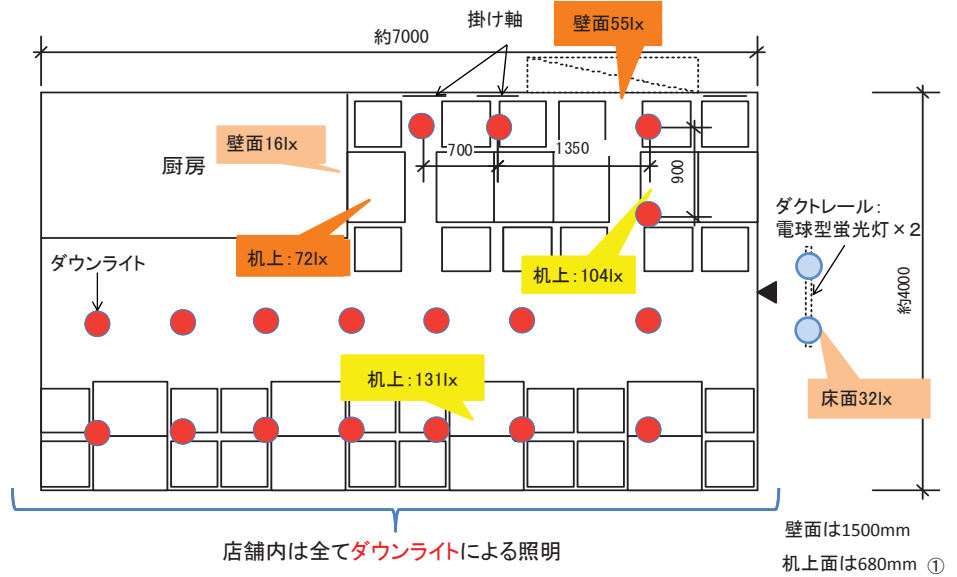
■ Group 4: タイ ソムオー

By: 植野 正士 団員

4 班はタイ料理店を担当、周辺の白い看板や街路灯の中で、オレンジやグリーン、タイ国旗のブルー・レッドの色豊かな印象でした。多数のあかりが混在する外観は、賑やかな雰囲気を彩っています。店頭のメニューパネルは内照式の他、ビームランプで照らされたものがあり、たいまつ風のブランケットや豆電球イルミネーションも目立ちました。入口前の道路床面照度は 100 lx を計測しました。

50 席程の店内は、おもにライティングダクトにスポットライトを配し、テーブルと壁の装飾を照らしています。光源はハロゲンランプ(60w くらい)です。全体として明るい印象を受け、陰影は均一的な光に埋もれ、際立ちをみせてはいません。天井からの光が主で、機能的でモダンな空間でした。店内の明るさが賑やかな空間をつくり、ファサードの印象と統一されています。机上面 200 ~ 250 lx、鉛直面 30 lx、色温度 2400K を測りました。

個人的には、70 点の空間。青白い蛍光灯の光で覆われ、閉鎖的な厨房に疑問を抱いています。タイの活気を空間にもっと注いで欲しいと思いました。ただ、サロンで「敢えて見せたくないのではないか」という指摘を頂きました。確かにスタッフの人数と席数の関係に於いては、料理はスピーディに提供され、その連携は見事でした。厨房をオープンにすることは、それなりの代償があるのでしょうか。「どこに力点を置いて、空間がつくられているか」という新たな視点が築かれました。



① 中華料理、店鼎龍飯の平面図。照明の配置とルクスの計測。

② Group 3 調査団員：松山 篤史、坂入 美彩子、飯田 多恵、福島 由利子



③ タイ料理店内：お店が二つに分散、厨房の白い蛍光灯側と客席の電球色のハロゲン側。

④ Group 4 調査団員：面出 和子、面出 薫、植野 正士、座光寺 ちなつ

⑤ タイ料理店ファサード：様々な光の要素を使って、華やかなファサードを持つタイ料理店。



■ Group 5: ネパール KBKitchen

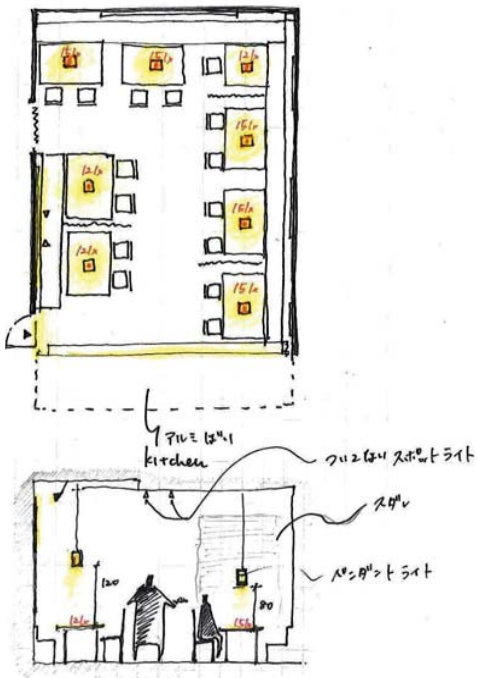
By: 本多 由実団員

大久保通りから分かれる小道にあるネパール料理屋が5班の調査対象でした。ネパールカラーの赤と青の布が底にかかり、電球型蛍光灯と内照式メニュー看板、エントランスに巻きつくイルミネーションでお店の存在を示しています。クリスマスの名残のようなイルミネーションは、このお店だけでなく他のアジア料理屋でも多くみられました。

明るい階段を下りて店内に入り、その暗さに班員は驚きました。店内の主な照明は、各テーブル上に吊られたシェードつきランプと壁を照らすスポットライト数台のみです。卓上照度は 15 lx で 2700K ほどの色温度でした。シェードランプは電球型蛍光灯の周りを曼荼羅のような柄の布地シェードで囲ったもので、卓上から 80 cm 程の高さ、ちょうど座った時に頭の上あたりに吊られていました。シェードが分厚くあまり透過しない素材であるためか、眩しさはありません。互いの顔や料理はやんわりと見える程度ですが、食事や会話に集中でき、居心地の良い暗さだという意見で一致しました。

「何がネパールらしいか」に関しては、BGMのネパール音楽、壁に貼られた山の写真、ランプシェードの曼荼羅のような絵、といった要素がありました。ネパール人の店長さんに伺ったところ、現地のレストランもこの程度の明るさということでした。

内照式のメニュー看板ではなく、メニュースタンドをスポットライトで照らすなどにして、店内のしっとりした雰囲気を入り口まわりの照明で表現できると、より魅力が増すのではと思いました。



ネパール料理店、KB Kitchen の平面図と断面図。照明の配置とルクス計測が記録されています。



①



②



③

①ネパール料理店内: 店員さんに聞くと、暗い店内はネパールのお店では普通だそうです。

②ネパール料理店ファサード: おとなしい店の入り口にネパールらしい布が飾ってあります。

③ Group 5 調査団員: 在家加奈子、東 悟子、吉田丈人、本多 由実



5 班のフィールドリサーチ後、二次回にて、簡単な報告会を行いました。



# 第36回研究会サロン @照明探偵団事務局

内容：第41回街歩き調査結果発表  
2011.04.19 中山レイチェル

2週間前に行った街歩きにおける調査内容や感想を5班それぞれが発表しました。熱く、そして実りあるサロンとなりました。アジアンレストランあかりのフィールとリサーチの発表ですので、アジアン料理が用意されました。



サロン発表前にアジアン料理をつまみながら、団らん中の団員。

## ■街歩きからサロンへ

今回のサロンでは2週間前に行われた街歩き「アジアン飲食店の調査」の発表が主な話題、5班に別れて調査して頂いた団員は力が入ったプレゼンテーションを用意してくれました。街歩きに参加していた団員はサロンにも出席率が高く、街歩きで発見したこと、感じたこと、などを伝えたいという情熱さを感じました。今まで探偵団事務局で行ったサロンでは内容が非常に濃くて、充実した2時間でした。

## ■団員の調査発表

今回のサロンで、非常に印象的だったのは出席していた団員の中、9割ぐらいが発言していたことでした。5班のリーダーが順々にプレゼンテーションをし、その横の席には同じ班のメンバーが座り、一緒に説明をしたり、自分なりの感想も述べたりしまし

た。当日の写真、調査シート、照度などの記録はもちろん丁寧に説明してくれたのと同時に街歩きで疑問に思っていたことを調べてきた団員も多かったです。飲食店で発見したインテリア、特徴的だった色、看板の作り、などについてそれぞれの国の歴史をたどったり、外国の友人に聞いたり、何かの手掛かりを探してきていました。さすが探偵団！そして、外観と店内の照明観察も鋭く、平面図や断面図のスケッチ上に照明の配置を書き、主観的にお店の雰囲気を感じたことだけではなく、客観的な分析まで報告してくれました。節電のため消灯していると思われる照明器具もあつたにかかわらず、ファサードや店内は「ちょっと明るすぎる。」「ちょっと眩しい。」「ちょうど良い明るさ。」などの意見もありました。5班の発表が段々と進んで、最後に大久保の街の節電について時間を見ていましたが、それぞれの班が非

常に細かく調査として記録したこと、楽しく過ごせた様子を面白く伝えてくれて、それだけで、たっぷり2時間かかりました。

## ■街歩きが大きな影響を与える

街歩きのやり方として、初めてのグループフィールドワークに挑戦した結果はサロンにも大きな影響を与えました。わくわく感があって、賑やかな雰囲気の中で団員が一人一人に参加しているのではなく、グループの仲間として、責任を持って、発言したり、緊張感を持って話を聞いたりしているように感じました。けれど、今回の企画では調査の結果より積極的な参加意識が団員に生まれてきたことは本来、サロンとして創造してやってきた思いがこの夜に形に現れたのではないのでしょうか。



5班が順番に発表を行っていきました。

## ■SQUAD第2班

SQUAD第2班に、照明探偵団の新しい街歩き企画を提案して頂き、第41回の街歩きとして実現ができました。企画、当日の案内、そしてサロンでの調査発表までご協力を頂き、ありがとうございました。照明探偵団事務局が団員のご紹介と感想を聞きました。



松山団員：私は昨年の夏に照明探偵団員となったばかりであったため、街歩きに関しても手探りの状態からの企画となりました。しかし、この度の企画を通して、【光という切り口で社会・文化・建築を語る】という私が探偵団員として一番やりたかったことができ、私自身とても楽しく活動させて頂きました。企画に協力して下さった皆様、議論を盛り上げて下さった皆様には改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。

高橋団員：今回は、街歩き時に各チーム調査→サロンで発表するという、通常よりも参加者に負荷のかかる企画となりましたが皆さんが楽しく調査されていたので安心しました。サロン時には、歴史や各国の色のとらえ方の違いなど、照明の周辺にある、文化的側面にも触れられ密度の濃い街歩きとなったと感じています。企画の機会を与えて頂き、ありがとうございました。

古川団員：Squad 第2班の3人が初めて「集った」のが、1月8日の前回街歩きの1時間半前。照明を大好きな3人が、「心地よい照明」を共通言語にして、事前の現場調査を重ね、調査シートの作成やお店選び、当日ルートを設定し、企画・準備しました。

チーム毎のお店のリサーチでは、調査シートを参考にしながら、各国のあかりを語り合い、団員同志の輪を深めることができました。そして、台湾への興味がとても沸いた、照明デザインの奥深さ・難しさ・面白さが分かった、次回もまた参加したい！という企画側にとって嬉しいコメントをいただきました。

東日本大震災で街のあかりは一変し、実施が危ぶまれましたが、決行させていただいた面出団長、東さん、中山さん、高橋桃子団員、松山団員、そして今回の街歩きに集ってくださった団員の皆さまのご協力で心から感謝いたします。

## ■照明調査のお礼

東日本大震災から2ヶ月が経ちました。先月に声をかけた街の節電調査にご協力を頂き、ありがとうございました。この際に皆様の努力によって、重要なデータ収集ができ、感謝しております。後日照明探偵団通信として、調査結果など皆様にご報告したいと思います。ご協力ありがとうございました。

## ■キャンドルナイトのお知らせ

6月17日に「東日本大震災被災者支援 チャリティー・キャンドルナイト@OMOTESANDO-Eco Avenue 2011」開催します！照明探偵団が考えてきたキャンドルインスタレーションは表参道ヒルズ水景に展示します。是非お越しください。  
<http://candlelight-omotesando.org/>

※当日のスケジュール：

19:00～20:00 こども達のキャンドルパレード

20:00～22:00 キャンドルインスタレーション、キャンドルカフェネットワーク、オリジナル行灯

## 【照明探偵団の活動は以下の19社にご協賛頂いております。】

ルートロンアスカ株式会社  
岩崎電気株式会社  
カラーキネティクス・ジャパン株式会社  
パナソニック電気株式会社  
ヤマギワ株式会社  
マックスレイ株式会社  
DNライティング株式会社  
エルコライティング株式会社  
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン  
東芝ライテック株式会社  
コイズミ照明株式会社  
マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社  
タルジェットイ ポールセン ジャパン株式会社  
株式会社遠藤照明  
湘南工作販売株式会社  
トキ・コーポレーション株式会社  
山田照明株式会社  
株式会社ウシオスペース  
森山産業株式会社



探偵団通信に関してのご意見・ご感想等随時受付中です！  
お気軽に事務局までご連絡ください。